

横浜保育福祉専門学校 学校関係者評価委員会における指摘事項等

令和7年3月14日、および5月22日、本校にて社会福祉法人施設長、県立高等学校校長、地域住民代表、卒業生代表(保育士)よりそれぞれ1名、保育園園長2名、合計6名に委員として出席いただき、教職員8名と学校関係者評価委員会を実施した。指摘事項等は以下のとおり。

1. 教務活動について

- ・退学率低下について、目標を持っていたとしても途中で断念している若者が多いため、よい傾向である。出席率の低下については、大きな懸念事項にしくなくても良いのではないかと。就職直後は遅刻の多い卒業生保育士がいたが、だんだんと良くなって立派に働いている。社会人になった後は切り替えてきている卒業生が多い。学校や職場は「毎日行くもの」という気持ちを育ててほしい。コロナを経た学生たちは出席に関してあいまいな感情を持っているのではないかと。学校に来る喜びを向上させることが大切なのではないかと思う。
- ・保育実習日誌のデジタル化導入については、とても効率的になり大いに評価できる。学生にもデジタルに慣れてほしい。手書きの時と異なり温かみは書けているため、温かみを伝えるにはどうしたらいいか、温かみの伝わる文章を作れるようになることが課題ではないか。多くの保育現場では、保育ICTシステムを活用し保育記録のデジタル化を行っている。今の若者はパソコン操作が難しく、スマートフォンの操作が得意である。今後はスマートフォンでもできるものが増えることが予想される。
- ・最近の若者は、多世代の交流経験が希少で、保護者対応に難があるように見える。現場は、様々な年代がいる。保護者も難しくなっている。業務の割合で保護者対応が多くなっているため、保護者対応を学べる機会が増えていくとよいと考える。教育活動の中で年上の方との対応や言葉選びを先輩たちから学んでいければよいのかと思う。

2. 就職について

- ・保育園の就職率が上がり、保育が楽しいという指導がうまくいっている成果ではないか。
- ・実習を受け入れる立場として、福祉施設が楽しいとも思ってもらえたら嬉しい。インターンシップ学生の受け入れ等、今後も連携を深めていきたい。

3. 社会貢献・地域連携について

- ・地域の子育て支援や子ども系の催事にボランティア学生がたくさん参加してくれ貢献度が高い。学生たちはみんな真面目にやっている。他大学の先生方から、最近の学生は、鉛筆が持てない、箸も持てない、姿勢も良くない人が増えているという話を聞いている。今の保護者は子育て経験や社会経験が少なく難しいケースも多い。学生も同じ傾向と思われる。
- ・打たれ弱い若者が増えているのではないかと。引き続き学校と地域で連携を深め、コロナ後の学生の成長を見守りたい。